

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第九十話 「判官館の秘密（随想）」

（要約文）

平泉から蝦夷地へ逃れた源義経が新冠の高台に館を建てたという伝説は、何百年も昔から地元のアイヌに伝えられてきた。しかしその真偽は不明で、いつ頃から、誰がここを「判官館」と呼んだのかは解っていない。

数十年前、はじめて判官館跡の高台に登ったとき、館の遺跡や、それがあつた痕跡の一つも発見できず、ひどくがっかりしたものだ。

しかしその後、改めて判官館について考え直した。武将が館を建てたのであれば、敵襲を意識し地相を重視しただろう。周囲の山川や海も含めた立地条件を軍学に当てはめて考えるべきではないか。

新冠町の地図を広げた私は「あっ！」と驚いてしまった。判官館と呼ばれる山は、防戦に適した地相とされる「四神相応」の地形だったのである。兵学書によれば、四神相応は「台地は北高く、南低き、南北に長く、東南西に水ある」とされ、判官館周辺に合致する。このような

場所が昔のアイヌの人々によって偶然選ばれるとは考えにくい。

そして、さらに驚くものを発見した。判官館跡の南方、海岸面に位置する大壁面に、義経の立像と推定できる線刻画が隠し刻まれているように見える。義経がこの地に居た事を伝えているのではないだろうか。

【解説】

判官館の壁面に線刻画があるというのは一つの考察で、これを証明できるものはありません。しかし、「判官館の崖に義経の姿がある」と話す人は昔から時々います。たびたび義経に見立てられる神秘的な場所です。



「判官館の壁面」

義経の立ち姿に見えとも言われる海側の岸壁。色々な表情を見せてくれる。

夏の交通安全運動が実施されます (7/13 (月) ~ 7/22 (水))

- 7月13日は飲酒運転根絶の日
- スピードダウンと全席シートベルトの徹底
- 「ハンドサインでストップ運動」で事故防止

静内警察署

戸籍の窓

5月6日～6月5日までの届出分（敬称略）

●お誕生おめでとうございます

渋谷 咲菜（孝太郎 睦） 東町
橋本 朔（優樹 すず） 北星町

●おくやみ申し上げます

荒谷 チエ 87歳 節婦町
山田 輝 86歳 本町
加藤 三四江 94歳 緑丘
山村 壤 90歳 北星町
大福 レナ 51歳 北星町
壁岸 京 88歳 節婦町

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

町公式ホームページ 町公式フェイスブック



人の うごき

（令和8年5月末現在）

人口	4,912人	（前月比 + 3人）
男	2,519人	（前月比 + 6人）
女	2,393人	（前月比 △ 3人）
世帯	2,835世帯	（前月比 ± 0世帯）